

佳作

わたしの髪よ笑顔につながれ

和歌山県 智辯学園和歌山小学校三年 中井 貴世

今年の六月に、生まれてから八年間ずっと伸ばしていた髪をていきようしました。『ヘアドネーション』といいます。そんな時に、本屋さんで『髪がつなぐ物語』と書かれていて、長い髪を束ねてカットしている写真のつた本を見つけました。私もこの間、写真と同じようにして、髪を切ったばかり。も

っとヘアドネーションについて知りたくまりました。ヘアドネーションとは、病気のために髪がぬけてしまったり、生まれつき髪やまつ毛がない子や脱毛症の人に、医りよう用のウィッグを作って、届けることです。でも一人分の髪の毛で一人分のウィッグができるわけではありません。一つのウィッグは二十人から三十人ほどの髪の毛からできます。たくさん人の髪の毛は専門の業者さんが処理をして、日本人の子供の髪の毛の色にしてウィッグをつくるじゅ

んびをします。その処理にはとても高いお金がかかるそうです。全ては寄付で行なわれています。

わたしが髪の毛のていきようをしようと思ったきっかけは、インターネットで見た美容室でヘアドネーションをしていることが書いてあったので、私もやってみたいと思いました。

ていきようするには三十一センチメートル以上の長さが必要なので、早速お母さんにはかかってもらいました。長さは十分。そして、美容院に行きました。私が髪の毛をバツサリ切るのは初めてです。切る時はとてもきんちようしていました。髪を少しずつの束にして切っていくきます。美容師さんが

「とってもきれいなサラサラの髪だね。きっと喜んでもらえるよ。」

と言ってくれました。切ったあとはとてもすっきりし、自分の髪が早く人のために役立ってほしいなと思いました。短かくカットしてもらった髪で、すぐにおばあちゃんの家に行って見てもらいました。おばあちゃんもおじいちゃんも、

「可愛いね。貴世ちゃんの髪は、髪がなくて困っている人の役に立つよ。偉いなあ。」

と言ってくれました。

本の中では、いろんな理由で髪の毛が無くなって、ウィッグを必要とする子供たちの様子が書いてあります。なかにはウィッグが届くまでに病気が悪くなって亡くなってしまった子もいます。ウィッグが届いて、髪があった時のように普通の生活がとりもどせたお友達もいます。お友達が笑顔になって、お父さんやお母さんも笑顔になって、私の髪もだれかの役に立っているといいなあと思いました。

ヘアドネーションは年れいや性別に関係なく、子供でもできるボランティアです。今日からまた、きれいな髪を伸ばすために、なるべく好き嫌いせずに何でも食べようと思います。そして、またていきようできるといいなと思います。